

地震・津波災害に安心な病院

美波町国保美波病院院長 本田壮一

〒779-2109 徳島県海部郡美波町田井105番地1

Tel : 0884-78-1373 Fax : 0884-74-8020

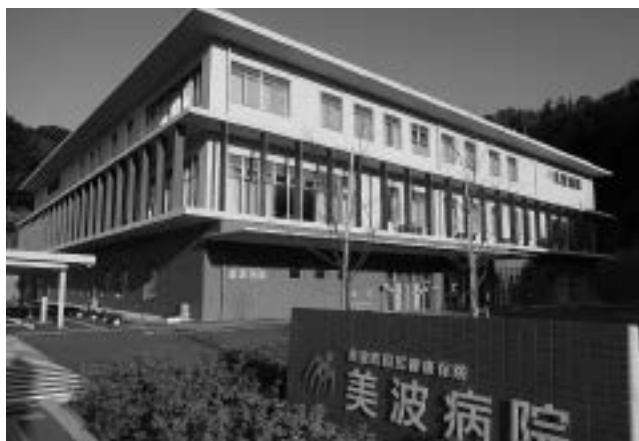
平時の連携から、災害時に備える

美波病院は、一般病床50床の鉄筋コンクリート造。駐車場も広く1階には6つの外来診察室（温水の手洗いや電動で上下できる診察ベッドがある）や、臨床検査、レントゲン、リハビリテーション、事務、厨房がある。2階には4床室（日本初の通路側のベッドからも窓が望めるR型カーテンを備える）や個室からなる50床の病棟で、談話室や家族室も用意された。3階は手術室・会議室や医局・当直室がある。リハビリ（運動器、脳卒中など）を本格的に開始し、ヘリカルCT、電子カルテ、院内PHSが導入された。

標榜科は内科・外科・整形外科・脳神経外科。けれども、整形外科の常勤医が見つからないなど、マンパワーが弱い。院内の災害対策委員会を始め、月に2度集まっている。16年6月には徳島県の災害医療支援病院に指定された。「災害医療マニュアル」の作製や17年2月には、初のトリアージ訓練を行った。

「平時の医療連携」が重要と考え、海部郡医師会の活動（ケアマネ・タイムの冊子作成）に協力し、紹介患者受け入れを看護師により一本化を図っている。また、医学部学生や研修医を受け入れ、都市部より10年進んでいる地域医療の実際を示している。県知事の主導で、「海部・那賀モデル」（隣接する那賀郡を含めた公立の病院・診療所群での共働）が構築されており、当院も参加している。美波病院においても、「持続可能な地域医療」を合言葉に、連携・教育の活動を行っている。

●参考文献 本田：研究のマインドを持ち続けたい、国保直診の仲間たち（医師）. 地域医療, 512(58), vol51, No4, 2014



高台に免震建物が完成

美波町は徳島県南部の海部郡にある。太平洋に面する四国山地の東端で、平野部は少なく、リアス式の海岸となっている。あわび・サザエなどの海女漁や伊勢えび漁が盛んである。2009年9月から10年3月に放映された、NHK朝の連続ドラマ「ウェルかめ」のロケ地で、アカウミガメが上陸・産卵する大浜海岸や、夏季にJRの臨時駅が開設される田井ノ浜海水浴場がある。四国第23番霊場の薬王寺があり、お遍路さんをよく見かける。高齢・少子化（小学校の休校が続いている）・人口減が進み、現在の人口は7,000人余り。

当地では南海トラフ地震・津波が約100年周期で発生している。南北朝時代の太平記に当地の被害の記述があり、その慰霊碑（康暦の碑）は、日本で最も古い津波の石碑といわれている。築35年の由岐病院（50床、海岸から500メートルの液状化の懸念される埋め立て地にあった）や築45年の日和佐病院では、震災への対応が課題であった。2011年の東日本大震災の教訓は大きく、移転計画が加速した。2016年3月に、海拔23mの高台（津波の予測高は12m）に免震の3階建の美波病院が開院した。